

立春とともに関東では春一番が吹いた？、と思ったら今度は大雪です。最強寒波がやってきたとのこと。一方で、大量の花粉が飛散する様子も報道されています。三寒四温、寒さに凍える日があっても、一歩ずつ春は近づいています。

ところで、今日は物騒なタイトルです。正則小学校の遊具がいくつか撤去されました。もともと、遊具の安全基準が厳しくなって、昨年度から使用禁止になっていたものが多かったのです。そこで、今年度になって各小学校で順次、交換・撤去・移設を行うことになりました。本校ではまず、滑り台とリングラダーを撤去し、残った遊具を配置換えします。遊具間が狭いという指摘を受けたからです。合わせて、新しい滑り台を設置します。これまであった滑り台は、いつ設置されたものか不明です。市教委に問い合わせたところ、正確な記録は残っていないが、昭和47年の校舎改修の際ではないかとのことでした。以来、危険防止のため、滑る方向を変えたり登り口を減らしたり、滑走面を鉄板からステンレスに変えたりと改修を繰り返しながら、50年もの間正則の子を見守ってきました。その頃の一年生は、今はもう50歳も半ば。もしかしたらそのお孫さんが、新しい滑り台で初滑りを体験するかもしれません。



47年前には“安全”だった遊具も、老朽化と安全基準の強化で“危険”と判断され撤去されていく。安心安全であるべき学校で、遊具の事故はあってはならないことだから、仕方がないことです。そういえば、昔はあった回転系の遊具は、今はどこの小学校からも消えています。ブランコや、ジャングルジムや、シーソーだって、使い方次第ではとても危険な遊具です。いつかそれらも、小学校からなくなる日が来るかもしれません。

昨今の子どもを取り巻く危機は、遊具だけではありません。この夏の熱中症、大阪のブロック塀倒壊など、痛ましい事件で学校や行政の責任が問われました。いじめや虐待、不審者の事件など、ひとたび起これば社会問題となって国会で論議されることもありました。

「その危機は予見できたか。」「どんな予防策をしたか。」食物アレルギーも、交通事故も、



地震や津波などの天災でさえ、常に学校は安心安全であることが求められています。もちろん、施設・設備の整備は当然行われるべきです。その上で学校が本来すべきこと、「子どもが自分で自分の身を守る力」をつけさせる教育を、私たちは進めなければならないと思います。滑り台を低くする前に、ジャングルジムを撤去する前に、その力をつけてやるのができたかを、家庭や地域と一体で、学校は問い直していく必要があります。